

平成 25 年 10 月 1 日

胃炎や胃潰瘍は日本人に多いと言われていて、その原因の1つとして、ピロリ菌の感染が注目されています。胃の不快感が長引いている場合や、胃炎や胃潰瘍などを起こしやすい人は、ピロリ菌に感染しているかも知れません。

今回は『ピロリ菌』についてお話しします。

●ピロリ菌とは？

ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)は、らせん形で胃粘膜の中に生息している菌です。長い間、胃の中は強い酸性に保たれているため、生物は住みつくことができないと考えられていました。しかし、ピロリ菌は「ウレアーゼ」という物質を出すことにより、胃酸から身を守ることが出来ます。



●ピロリ菌に感染すると？

ピロリ菌に感染すると、胃の粘膜が傷つけられたり、ピロリ菌から胃を守ろうとするための生体防御反応により胃の粘膜に炎症が起こります。この時点では症状のない人がほとんどです。しかし、ピロリ菌に感染している状態が長く続くことで、慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの病気を引き起こす可能性もあります。

そのため、近年ピロリ菌を薬で退治する「除菌療法」が行われるようになりました。ピロリ菌の除菌により、関連する病気の改善や予防が期待できる場合があります。

●ピロリ菌の感染経路は？

ピロリ菌がどのような経路で、いつ人の胃に入り込むのかについてはまだはっきりとはわかっていません。

大部分は飲み水や食べ物を通じて、人の口から体内に入ると考えられています。

ピロリ菌は、ほとんどが5歳以下の幼児期に感染すると言われています。幼児期の胃の中は酸性が弱く、ピロリ菌が生きのびやすいためです。最近では、母から子へなどの家庭内感染が疑われていますので、ピロリ菌に感染している大人から小さい子どもへの食べ物の口移しなどには注意が必要です。



●検査について

ピロリ菌に感染しているかどうかは検査によって確認することが出来ます。

検査方法には内視鏡を使う方法と内視鏡を使わない方法、合わせて6種類の検査法があり、内視鏡を使う方法では、検査と同時に胃の中の様子が観察できます。

●ピロリ菌の除菌について

胃潰瘍または十二指腸潰瘍と診断されたり、内視鏡検査で胃炎と診断された人でピロリ菌の感染が確認された場合、健康保険を使ってピロリ菌の除菌療法を受けることが出来ます。

ピロリ菌の除菌療法は、2種類の「抗菌薬」と「胃酸の分泌を抑える薬」の合計3剤を一緒に服用します。1日2回、7日間服用する治療法です。正しくお薬を服用すれば除菌療法は約80%の確率で成功します。1回目の除菌療法で除菌できなかった場合は、再び7日間お薬を服用して2回目の除菌療法を行うことができます。1回目、2回目の除菌療法を合わせた除菌率は95%を超えます。

確実にピロリ菌を除菌するためのコツは、指示されたお薬を必ず服用することです。自分の判断でお薬をのむのを中止したり、お薬をのみ忘れてしまうと、除菌がうまくいかず、治療薬に耐性をもったピロリ菌があらわれて、薬が効かなくなることがあります。

●薬の副作用は？

除菌療法を始めると、副作用があらわれることがあります。主な副作用には、軟便や下痢があります。ほかに、食べ物の味がおかしいと感じたり、苦みや金属のような味を感じたなど、味覚異常があらわれる人もいます。これらの症状は多くの場合、2、3日でおさまります。

肝臓の機能をあらわす検査値の変動が見られることや、まれに、かゆみや発疹など、アレルギー反応があらわれる人もいます。



その他、気になる症状を感じた場合には、自分の判断で勝手に服用を中止するのではなく、主治医または薬剤師に相談してください。

<参考>

今日の治療指針 2013 医学書院

武田薬品『ピロリ菌のお話.jp』

<http://www.pylori-story.jp/>

ピロリ菌にご用心! <http://www.pyloricauton.com/>

